

第 10 回 日本外来小児科学会 予防接種委員会 議事録

文責：藤岡雅司

開催日時：2011 年 7 月 10 日（日）12:00-15:00

開催場所：ホテル新大阪 東口ステーションビル

出席者：岡藤隆夫、落合 仁、武内 一、寺田喜平、宮田章子、渡辺 博、
横田俊一郎、藤岡雅司、永井崇雄

欠席者：田原卓浩、吉川哲史、宮崎千明

[報告事項]

1. 予防接種委員会の 2010 年の決算と 2011 年の予算について（藤岡）
2011 年予算として 35 万円（会議費 10 万、調査費 20 万、システム検討会 5 万）で提出。
2. 学会 HP の各部会、委員会、検討会等の Web 担当者の推薦について
予防接種委員会の連絡先は岡藤隆夫先生とする。具体的な動きはまだ。
3. 現在進行中の研究の進捗状況について
 - 1) 麻疹含有ワクチンの発熱率はそれほど高くない？（岡藤）
調査終了予定は本年 9 月。報告は 120 例。観察期間が 2 週間以上重なっている症例（ワクチン群 52 例、コントロール群 52 例）で解析中。4 週以内 38℃以上発熱例はコントロール群の方が多かった。ワクチン学会に演題提出予定。
 - 2) 突発疹（HHV-6 初感染）後の MR ワクチン接種スケジュールに関する検討（吉川）
昨年のワクチン学会報告後の進展はないと永井委員長から報告。
4. 本年の第 21 回年次集会（神戸）での予防接種委員会の WS の準備状況（岡藤）
19 施設 32 名の申込みあり（リーダーに直接申し込めば追加登録可）。スムーズな予防接種外来を目指す。予約方法、スケジュールの決定、広域化、助成

状況など。接種数、勧奨方法等についての事前アンケートを予定。予防接種委員会委員で時間に余裕のある人はできるだけ参加して欲しい。

5. 厚生科学審議会感染症分科会予防接種部会、予防接種推進専門協議会、日本小児科学会予防接種・感染対策委員会などにおける最近の議論の方向性について（宮崎先生から事前に提供された文書に沿って議論）

① 厚生科学審議会感染症分科会予防接種部会

- a. 緊急促進事業対象の 3 ワクチン、他の定期接種化希望ワクチンの動向については全く不明。
- b. ガーダシルがサーバリックス同様、緊急促進事業に追加。
（意見）ワクチンの互換ができないので現場での混乱が予想される。ガーダシルが不足（100 万本準備）する可能性もあり。
- c. IPV 導入について。国産 DPT-IPV については 24 年度中の承認予定。単独 IPV については Sanofi Pasteur が開発表明。「IPV の円滑な導入に関する検討会」設置予定。

（意見）保護者 OPV の接種控えや、岡山県では OPV 接種中止を表明している基幹病院もあり、望ましくない状況である。三重県では混乱を防ぐため 4～5 か月での OPV 接種（他のワクチンとの同時接種）を県内医療機関の統一方法としてまとめた。震災や現在の政治状況では 24 年度中の IPV 承認は難しいのではないかと。学会等としては未承認ワクチン（輸入 IPV）を勧めることはできない。保護者の不安に対応するために輸入 IPV を利用することも必要ではないか。

② 日本小児科学会 予防接種・感染対策委員会

- a. BCG 骨炎の増加
（意見）接種年齢についての検討が必要、地域差も検討必要。
- b. HTLV-1 母子感染予防
（意見）都道府県に丸投げしている状況。長崎県との差が大きい。

③ 予防接種推進専門協議会

岩田敏先生が委員長となる予定。具体的な議論はこれから。

- ④ 日本脳炎ワクチン、MR4 期に関する当委員会からのパブリックコメントの提出。

(意見) 提出内容の通りに法令が改正されたが、日本脳炎については接種対象者の間違いが起こっている(対象者を生年月日で決めているのに厚労省通知では年齢で書かれているため)。本来救済すべき対象者の一部が漏れている。

⑤ 最近認可されたワクチンについて

(意見) ロタリックスについては同時接種でなければ接種できなくなる。ワクチン費用が高価なため接種率が上がるかどうか不明。

6. 日本小児科医会、日本医師会などの関連した動きについて(横田、寺田)
日本脳炎救済措置の対象年齢の拡大を小児科医会として要望。
同時接種アンケートを行ったが各県3施設の状況集約のため評価が難しい。
7. 予防接種システム検討会について(藤岡)
11月20日(日)東日本外来小児科学研究会(テーマ「ワクチンNOW」)との併催を予定。
8. その他
 - ① 風疹の検査体制の充実についての要望を行う。
 - ② ヒブ、肺炎球菌感染症の全数報告などサーベイランス拡充の要望を行う。
 - ③ 細菌性髄膜炎を感染症法における特定感染症とする要望を行う。

[協議事項]

1. 複数のワクチンに対する同時接種への対応について
 - ① 同時接種の EBM は？（宮田）

日本の状況に合致するようなエビデンスはない。
わが国独自のエビデンスを構築していくしかない。
 - ② 同時接種のために我々が取り組むスタンスは？

同時接種を行いつつ、わが国独自のエビデンスを確立できるようにする。
 - ③ 調査研究すべき課題と本学会としての対応は？

岡田班で接種後（同時、単独）の副反応（発熱、局所反応、全身反応）についての調査が実施中。

2. 「細菌性髄膜炎から子どもたちを守る会」からのお願いについて（武内）

費用助成の継続、保護者に理解しやすい情報の提供、被災地での予防接種の支援についての要望書が提示された。
予防接種委員会として要望書を受け取るが、対応は学会及び委員会が独自に決める。予防接種推進専門協議会関連学会への提出を勧めた。守る会の副代表でもある武内委員が対応する。

3. 2011 年 12 月 10-11 日の日本ワクチン学会、2012 年 3 月の予防接種に関する報告会（旧班会議）への対応について
ワクチン学会へは、宮田委員（同時接種のエビデンスについて）、岡藤委員（MR ワクチン後の発熱調査）など、各委員が演題を提出予定。
旧班会議については連絡があれば対応する。

4. すべてのワクチンの定期接種化に向けて我々の行動すべき方向
疾病サーベイランスの構築を同時に進めていくことが必要。
外来小児科学会会員に向けて委員会から啓発活動も検討する。
予防接種推進専門協議会の活動を注視しつつ、日本版 ACIP の設立に向けて協力できることは行う。

5. 次のリサーチテーマ

協議事項なし。

6. 次回の委員会開催予定

10月から12月上旬で予定。MLで協議する。